

衛星設計コンテスト実行委員会の会長の林教授が資料 40-1 (コンテスト実施報告)を説明した後、日本宇宙フォーラムの折井常務理事がコメントを付け加えた。合わせて25分ほど要した。其の後、8分程の質疑応答があった。(全応募件数39件の内13件を最終審査の対象とし、11月2日に最終審査を行い表彰した。応募から最終審査までの間、審査委員が各専門分野を分担して学生達にフィードバックを掛ける事を今回から行なった。其の成果が、最終的に素晴らしい作品が揃った。)

松尾委員長:ええと、此の件で何か、ご質問等御座いますでしょうか。

青江:普通のコンテストで云うと、応募をバナーッと取り纏めて、審査をして、はい表彰。此れだけじゃないですか。今のお話聞くと、来たやつを帰してあげて、**此れ¹**やっておられるわけですよネ。

フォーラム折井:そうです、はい。

青江:其れはあの、やっとなされる方は物凄い手間だと思うんですけどもですネ、

フォーラム折井:はい、大変手間ですが。

青江:あの、其れを正にボランティアベースでですネ、やって頂いて、此れ、斯う、ええと関わる人の数って言うんですか、学生さん等の数と云うのはそんなに、確かに、此れ物凄く大き

¹ 見て確認しなかったが、多分ジェスチャーで、コメント・指導と再提出の遣り取りの事を表現したらしい。

いもんじゃないけれども、私は非常にこう、大変良い事をして頂いて居ると云う風に思いますですネ。其れが非常に良いインタラクションがですネ、多分、あの、まあ、其の坊や達が此れからどうなるか良く分かりませんけれども、大変良い効果じゃないかと云う風に思いますですネ。

フォーラム折井:有難う御座います。是非、此れ、継続もやっぱり力なりって事あってネ、やっぱり辛抱強く長く続けて行こうかなと思ってます。まあ、審査員の中ではそう云う議論が為されていると云う事です。はい。

森尾:5頁に受賞作品てのがありますけど、どれが何賞か、まあ、一番の設計大賞が設計部門てのは分かりますけども、あと、ジュニアも五つ有りますけども、後はカテゴリーがどう云うアレなんでしょうか。

フォーラム折井:アーー、

森尾:設計のカテゴリーは?

林教授:表の中に「設計」であるか「アイデア」であるかと云う処が、

フォーラム折井:ああ、其の区別が無いですね。ええとですね、此れは…済みません、お手元の資料、斯う云う回答しちゃいけないんですけど、此の青い表紙の中に、実はどれが設計かって云うのは書いてありまして、

森尾:はい、じゃあ、後で見ますので。

フォーラム折井:申し訳御座いません。後で私整理したものをお答えします。申し訳御座いません。

森尾:それであの、一寸お聞きしたいのは、カテゴリーの見直し

が必要かどうかで議論されてるって事なんですけども、10ページの最後の所。現状だとどう云う点が問題かと説明願います。

フォーラム折井: はい、分かりました。ええと、簡単に言いますとですネ、設計の方は50キロとかですネ、大きさを規定してます。要するにピギー・バックって云う考え方ですんで、ところが「アイデア」の方はそう云う規定がありません。だから数トンの衛星、中には火星まで持ってって、原子力電池を乗っけてって云う、だから3トン位の衛星のものも有ると云うのが、実は「アイデア」に入ってます。カテゴリーって云う、そこ等辺の事です。だから、50キロの衛星で縛っていいの²って云うのが、実はありましてですネ、まあ、ここ等辺を今後考えて行きたいなと思ってます。はい、あ、それからついでですけど、あの、ポイントで、今回新たに出た、芸術系の学生が出たって云う事と、それからもう一つはあの、今迄一大学の学生のチームだったんですけど、これは確か「アイデア」の「月周回衛星」だと思いますが、東京大学が中心になって、地方の大学の連携を組んで、で、一度も此の場に会合しないで作り上げてる。要するに、なんてんだろう、あの、パソコンベースで電子会議って言うんですか、アレ、メールのやり取りで物事を作ってるって云うのが一件ありました。

² 設計の経験を積む為には、無理難題と思われる程の厳しい制約が役立つ。学生の時に1000ccのガソリンエンジンの設計が課題であったが、教官が過去の事例を紹介した。其れはエンジン重量1トンのエンジンだった。此れでは勉強にならない。

これだけ新しいものです。

松尾委員長: 芸術工学って、どう云う事だかお分かりになってます？

フォーラム折井: 分かりません。正直、私分からなくて。あの、実態申しますと、各審査員の方も一寸あの、「うーん、何だろうな」

野本: あの、費用が掛かるって云う事なんですけれども、今、此の費用はどこが出しているんですか。どこか、学会からの寄付とか、そう云う形で運用されてるんですか。

フォーラム折井: ええと、費用はですネ、JAXAさんとフォーラムで出してます。で、学会からは出てません。で、上手に聞いて頂ければと思うんですけど、JAXAさんは会場費位です。で、残りのものはフォーラムで出してるって云うものです。で、まあ、出来ればあの、高校生ですネ、地方からいらっしゃる高校生の旅費位は何とか面倒見てあげたい³と思っはいるんですけど、まあ、そこ等辺が中々、あの、お互いに制限が有りまして苦しいところですので。此れあの、まあ頼むばかりじゃなくて、私達も自助努力して色々考えなきゃいけないんですけども、まあ、敢えて今日は、あの、林先生のご指導もありまして、出してみたらと云う事で提案させて頂いております。これはあの、去年も出さして頂いたと思いません。

³ 本大会に出場出来るのは故郷の名誉だろうから、地方政府、または其処に話し掛けて地方企業から寄付を募るのが良いのではないか。

池上: で、此の後はどうなるんですか。実際に、例えば、マイドス(?)の様にですネ、実際に打上まで行きそうなものも有るんですか。いやそう云う風にしたいって云う風に行こうってのも有るんですか⁴。

フォーラム折井: はい、ええと、現状申しますとですネ、実際は此処で終りになります。あの、私の言い方、一寸きついかも知れませんが、此処で切れちゃいますネ。で、まあ、期待してるのは、まあ特に中須賀先生とか仰ってるんですけど、まあ、此の中で、大学として捉えて、体制も確り、てのは、今、学生さんでやらしてるもんで、どうしても大学生ってと、3年生の方がやられると、2年で卒業される。それから修士の方の2年ですよネ。で、大学3年から修士まで行かれれば4年の学生が居るんだそうですけど、中々其れ、体制で維持して行くの、難しいって云う事で、やっぱり大学が主体的にそう云う位置付けをして、で、お金も整えれば、あの、此れをベースにして出来るとは仰ってましたけど、中々今、そう云う案件が出て来るかどうか、あの、衛星設計コンテストとしては実は之で実は終りになってますネ。はい。

池上: 中須賀さんはじゃあ直接此れには噛んでないんですか。

フォーラム折井: ええと、噛んでいらっしやいましたし、あの、審査会場でも顔を出されてる。はい。

池上: ああ、そうですか。コンテストの方に入ってる訳ネ。

フォーラム折井: はい、色んなコメントは頂いております。

⁴ 質問の背景になる、池上委員の願望が見えて来ない。

林教授: あとは、此の提案した母体の先生方が、どう云う風に此れを育てて行くかと云う取り組み方一つだ⁵と思います。

池上: 当然その後ファンディングが必要になって来る訳ですよネ。で、此れを受けるようなファンディングと云うのは、今の処は無いですか。経産省のアレは小型って言っても、もっと大きい小型ですよネ⁶。

林教授: 此れは、ですから折に触れて、申請をして頂ければと云う事になるんじゃないでしょうか。ですから、其れは全く約束されている事では御座いません。

松尾委員長: 一旦此れで終わると云う事になりますと、やっぱり一番その、なんて言うかな、具体的に受けた人の財産として残るのは、先程フィードバック掛けてご指導なさると云うことだと思いますので、其処は是非今後とも宜しく御願いたしたい。先程のお話だと何となく、指導された方も何か手応えを感じてと云う様なニュアンスを受けたんですけど、そう云う事なんですよ。

フォーラム折井: そうですね、はい。

松尾委員長: どうも有難う御座います。宜しゅう御座いますか。どうも有難う御座いました。

⁵ 正にそうだと思う。コンテストで受賞した事は、次の段階に向けた強い動機付けになっている。資金と陣容の目処がつけば、先の段階に進めると思えるだろう。それで十分だと思う。

⁶ サイズの問題は意味が無く、経産省が衛星を作っている意図こそが重要である。其処に応えなければ資金援助は得られない。